職業実践専門課程等の基本情報について

福井ビューティー製		設區	置認可年月	1日 核	き長名			所在地			
	菓保育専	 平成	8年12月1	1日 大原	原 陵路)10-0005 逼井県福井市大手2 ⁻	丁目9番1号			
門学校							776-21-0001	所在地			
設置者名			这認可年月		表者名	•	01-0065				
学校法人大原		昭和 	回54年4月 ————		· 毎彦	(電話) 0	東京都千代田区西神 33-3295-6266 大詞ウ佐藤		2左座	啦 ** 中	明钿和韧宁左车
分野 教育·社会福祉		<u>認定課程石</u> 社会福祉専		認定学科 介護福祉			士認定年度 23(2011)年度	高度専門士認定	上午及		<u>門課程認定年度</u> 6(2014)年度
教育 江五届位	75 H 1	工女佃证サ	1 100/12	7 段 田 山	-11-1	1 7%	20(2011)—12			1 1902	0(2014) — 1文
	教育基本活的とする。		^校 教育法及	び社会福祉士及び介記	獲福祉士法に	基づき介護並	びにこれらビジネスに	関する教育を施し、人	格の陶冶を	·行い、有為な	産業人の育成を目
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	介護福祉:本レクリエ	士養成施設と	として、介護 な認レクリ	養福祉士国家試験の合 リエーションインストラク	格を目指すと ターなどを取	こともに、介護業 得する。	美界で活躍できる人材	を育成するため、実際	の介護現場	場等での実習が	なども行う。また、日
修業年限	昼夜	全課程の修		な総授業時数又は総 立数	講	義	演習	実習	実	験	実技
2	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	2,074 単位時間 68 単位	87	0 単位時間	718 単位時間	456 単位時間		単位時間単位	0 単位時間
生徒総定員	生徒到	実員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数) (B)	留学生害	引合(B/A)	中退率				. –
20 人	5	i Д		1 人		0 %	0 %				
	■卒業者		:	6	1	人 ·					
	■就職希 ■就職者	· <mark>望者数 (D)</mark> ·数 (F)	:	6 6		<u> </u>					
	■地元就	職者数(F)	•	6		人					
	■就職率 ■就職者	E(E/D) に占める地	ᅲᆎᄥᆂᄼ	100)割会(F/F)		%					
	■水塊白	ロのの地	ルル・水・水・イン・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール)割合 (F/E) 100		%					
	■卒業者	に占める就職	戦者の割合								
	■進学者	·数		100 0		<u>%</u> 人					
就職等の状況	■是子句			0							
	(令和	1 6	年度卒業者	·に関する令和 7 年5月	1日時点の情	幸呂)					
		職先、業界		TOM DIVINITY ON	T 14 14 17/1/42 114	1 +14/					
	(令和6年度		•1								
			注 清水新	生会 双和会 足羽	羽福祉会 医	療法人 穂仁	会 株式会社 ケア	' ユニット			
		/ 144 BB 64	- 1. > 66 -	-ty == /			Arre				
你ー キ ル トフ		評価機関等 ういでは以下					無				
第三者による 学校評価											
							=	証価結果を掲載した			
		評価団体:			受審年月:	:		評価結果を掲載した ホームページURL			
当該学科の		評価団体:			受審年月:	:					
			ac.jp/senr	non/school/fukui_iry		:					
			ac.jp/senr	mon/school/fukui_iry		:					
ホームページ	https://w			mon/school/fukui_iry		:					
ホームページ	https://w	vww.o−hara.a	算定)	non/school/fukui_iry		:			2, 074	単位時間	
ホームページ	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	算定)	mon/school/fukui_iry デと連携した実験・実	o/					単位時間 単位時間	
ホームページ	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	うち企業等		⊙∕ 習・実技の授				456		
ホームページ	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	算定) (うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授	⊙∕ 習・実技の授				456 0	単位時間	
ホームページ	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数	o/ 習・実技の授 業時数	業時数			456 0 2, 074	単位時間 単位時間	
ホームページ	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	算定) (うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実際と連携した演習の授業 受業時数 でのででである。	o/ 習・実技の授 業時数 ご必修の実験	業時数 ・実習・実技の			456 0 2, 074 456	単位時間 単位時間 単位時間	
ホームページ	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	9算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持	等と連携した実験・実施と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	で 実技の授業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	業時数 ・実習・実技の の授業時数			456 0 2, 074 456 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	9算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持	等と連携した実験・実際と連携した演習の授業 受業時数 でのででである。	で 実技の授業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	業時数 ・実習・実技の の授業時数			456 0 2, 074 456 0	単位時間 単位時間 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	9算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持	等と連携した実験・実施と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	で 実技の授業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	業時数 ・実習・実技の の授業時数			456 0 2, 074 456 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した	https://w	/ww.o−hara.d 立時間による 総授業時数	9 第定) うち企業等 うち企業等 うち必修持 (うち企業	等と連携した実験・実施と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	で 実技の授業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	業時数 ・実習・実技の の授業時数			456 0 2, 074 456 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	/ww.o−hara.a 並時間による 総授業時数	9 第定) うち企業等 うち企業等 うち必修持 (うち企業	等と連携した実験・実施と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	で 実技の授業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	業時数 ・実習・実技の の授業時数			456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.d 立時間による 総授業時数 立数による算 総単位数	。算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持 (うち企業	等と連携した実験・実施と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した。	o/ 習・実技の授業時数 ご必修の実験 ご必修の演習の	業時数 ・実習・実技の の授業時数 授業時数)			456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.e 立時間による 総授業時数 立数による算 総単位数	算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持 (うち企業 ()	学と連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	の/ 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの	業時数 ・実習・実技の の授業時数 授業時数)			456 0 2, 074 456 0 456	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.e 立時間による 総授業時数 立数による算	算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持 (うち企業 ()	学と連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した きを連携したインター を等と連携した実験・実施を連携した演習の単位	の/ 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習 ーンシップの	業時数 ・実習・実技の の授業時数 授業時数)			456 0 2, 074 456 0 456	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.e 立時間による 総授業時数 立数による算	算定) うち企業等 うち必修哲 (うち企業等 うち企業等 うち企業等	を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した き等と連携したインター を等と連携した実験・実施を連携した演習の単位数	の/ 習・実技の授業時数 た必修の実験 た必修の演習の ーンシップの	業時数 ・実習・実技の の授業時数 授業時数)	の授業時数		456 0 2, 074 456 0 456	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位は時間単位は	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.e 立時間による 総授業時数 立数による算	算定) うち企業等 うち必修哲 (うち企業等 うち企業等 うち企業等	を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を要携したインター を連携した実験・実施を連携した演習の単位数 うち企業等と連携した	でターションを でのを でのとの でのとの でのとの でのとの でのとの でのとの でのとの でのとの でのました。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。 でのまた。	業時数 ・実習・実技の の授業時数 授業時数) 位数 ・実習・実技の	の授業時数		456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 中位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.e 立時間による 総授業時数 立数による算	算定) うち企業等 うちか必修 うちか必修 うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか	を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を連携した実験・実施を連携した演習の単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	でターシャンシップの と必修の実験である。 と必修の実験である。 で必修の実験である。 で必修の実験である。 で必修の実験である。	業時数 ・実習・実技の の授業時数 ・授業時数 ・ で変数 ・ できませる の単位数	の授業時数		456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 位位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.e 立時間による 総授業時数 立数による算	算定) うち企業等 うちか必修 うちか必修 うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか	を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を要携したインター を連携した実験・実施を連携した演習の単位数 うち企業等と連携した	でターシャンシップの と必修の実験である。 と必修の実験である。 で必修の実験である。 で必修の実験である。 で必修の実験である。	業時数 ・実習・実技の の授業時数 ・授業時数 ・ で変数 ・ できませる の単位数	の授業時数		456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 中位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.e 立時間による 総授業時数 立数による算	算定) うち企業等 うちか必修 うちか必修 うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか	を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を連携した実験・実施を連携した演習の単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	でターシャンシップの と必修の実験である。 と必修の実験である。 で必修の実験である。 で必修の実験である。 で必修の実験である。	業時数 ・実習・実技の の授業時数 ・授業時数 ・ で変数 ・ できませる の単位数	の授業時数		456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 位位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.a 立時間による 総授業時数 によ数によ数	算定) うち企業等 うちか必修 うちから うちから うちから うちから うちから うちから うちから から から から から から から から から から	を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を連携した実験・実施を連携した演習の単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	で で で で で で で で で で の で で の で の で の の の の の の の の の の の の の	業時数 ・実習・実技のの授業時数 位数 ・実質を数 ・実質の数 単位数)	の授業時数		456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 位位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.a 立時間による 総授業時数 によ数 によ数 にな数	(す) (す) (す) (す) (す) (す) (す) (す) (す) (す)	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等と連携した演習の授業等と連携した。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	o/ 習・実技の授 業時数 で必修のの 家演 プの で 主数 で 必修のの で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	業時数 ・実習・実技のの 選挙 ・実際 ・ 実数 ・ 実数 ・ 実数 ・ 実数 ・ 実技の が ・ 実技の が ・ 実技の が 単位数 ・ 実はの 単位数 ・ 単位数 ・ 単位数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の授業時数の単位数	ホームページURL	456 0 2, 074 456 0 456	単位 単単 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.a 立 総 前 選 に は 位 な 数 の のの ののの ののの ののの のののの ののの ののの	算ううううううへ校る定たかか <td< td=""><td>を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を連携した実験・実施を連携した演習の単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した</td><td>o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの</td><td>業時数 ・実技のの受験を表現である。 実技ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、</td><td>の授業時数</td><td>ホームページURL</td><td>456 0 2, 074 456 0 456</td><td>単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 位位 位位</td><td></td></td<>	を連携した実験・実施を連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を連携した実験・実施を連携した演習の単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実技のの受験を表現である。 実技ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の授業時数	ホームページURL	456 0 2, 074 456 0 456	単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 位位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.a 立時間業 一位数 には は は が が が が が が が が り の り で り の り り り り り り り り り り り り り り	算ううううううへ校る定たかか <td< td=""><td>を連携した実験・実 を連携した演習の授 きと連携した演習の授 き、 き、 き、 き、 き、 き、 き、と、 き、と、 き、と、 き、と、</td><td>o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの</td><td>業時数 ・実技のの受験を表現である。 実技ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、</td><td>の授業時数の単位数</td><td>ホームページURL</td><td>456 0 2, 074 456 0 456</td><td>単位 単単 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単</td><td></td></td<>	を連携した実験・実 を連携した演習の授 きと連携した演習の授 き、 き、 き、 き、 き、 き、 き、と、 き、と、 き、と、 き、と、	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実技のの受験を表現である。 実技ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の授業時数の単位数	ホームページURL	456 0 2, 074 456 0 456	単位 単単 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara.a 立	算ううううへ校る限る定たたかち方の教と者ま業業等999ままま <td>を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等と連携した演習のででである。 を連携した演習のででである。 を連携したでである。 を連携したた演習の単位である。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を変更になる。 での期間と での期間と での期間と でのまた。 できた。</td> <td>o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの</td> <td>業時数 ・実接のの要素を表現である。 まままでの できません しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう</td> <td>の授業時数の単位数</td> <td>ホームページURL 1号)</td> <td>456 0 2, 074 456 0 456</td> <td>単単単単単単単単単 人時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時</td> <td></td>	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等と連携した演習のででである。 を連携した演習のででである。 を連携したでである。 を連携したた演習の単位である。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携したた。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を連携した。 を変更になる。 での期間と での期間と での期間と でのまた。 できた。	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実接のの要素を表現である。 まままでの できません しゅう	の授業時数の単位数	ホームページURL 1号)	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単単単 人時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時	
ホームページ URL 企業等のと と 変 と の い に 記 入)	https://w	ww.o-hara.a 立	第 (す) (す) (す) (す) (す) (す) (す) (す)	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等と連携した演習の授業等と連携した。 を実験を連携した。 を実験を連携した。 をできる。 でも、こ。 できる。 でも、こ。 できる。 でき。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき。 できる。 でき	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実業・数 ・実業・数 ・変響・数	の授業時数 の単位数	ボームページURL 	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単単 人 人 時時時時時時時時時時時時時 位位位位位位位位 位位位位位 1 0 0 0 2 0 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 4 0<	
ホームページ URL 業等 との B記 との B記 し 機施ず し は 大れ に に に に に に に に の 属 性 (し に の は り の に の に り の に り の し の し の し の し の し の し の し の し の し の	https://w	ww.o-hara.a 立 が が が が が が が が が が が が が	第	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等とを連携した演習の経験を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実装の授業時数) ・変に対して、のでは、できません。 ・変には、のできません。 ・変には、のできません。 ・変には、のできません。 ・変には、のできません。 ・変には、できません。 ・変には、できません。・変には、できません。 ・変には、	の授業時数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	ボームページURL 	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単単単 人 人 人 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	
ホームページ URL 企業等のと と 変 と の い に 記 入)	https://w	ww.o-hara.a 立	第	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等とを連携した演習の経験を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実装の授業時数) ・変に対して、のでは、できません。 ・変には、のできません。 ・変には、のできません。 ・変には、のできません。 ・変には、のできません。 ・変には、できません。 ・変には、できません。・変には、できません。 ・変には、	の授業時数 の単位数	ボームページURL 	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単単 人 人 時時時時時時時時時時時時時 位位位位位位位位 位位位位位 1 0 0 0 2 0 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 4 0<	
ホームページ URL *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	https://w	ww.o-hara.a 立 が が が が が が が が が が が が が	第 ううう (定 ううう (校る限る 学 校 学定 ち ち ち ち ち ち ち ち ち の教と者 位 教 位 な の の の の か と 者 で か は で で で で で で で で で で で で で で で で で	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等とを連携した演習の経験を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実持の受験を表現である。 まままでの では では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる できまん できまれる できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん	の授業時数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	ボームページURL 	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単単単 人 人 人 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	
ホームページ URL ************************************	https://w	www.o-hara.a 立 が が が が が が が が が が が が が	第 ううう (定 ううう (校る限る 学 校 学定 ち ち ち ち ち ち ち ち ち の教と者 位 教 位 な の の の の か と 者 で か は で で で で で で で で で で で で で で で で で	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等とを連携した演習の経験を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実持の受験を表現である。 まままでの では では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる できまん できまれる できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん	の授業時数 の単位数	ボームページURL 	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単 人<	
ホームページ URL *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	https://w	www.o-hara.a 立	第 う う う (定 う う う (校る限る 学 校 学定 ち ち ち ち ち ち ち ち の教と者 位 教 位 な 企 企 必 ち 専育当 を 諭 又 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等とを連携した演習の経験を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実持の受験を表現である。 まままでの では では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる できまん できまれる できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん	の授業時数 の単位数	ボームページURL 	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単 人 人人人人的 人人人人的 人名 人人人人 人名 人	
ホームページ URL **** ・	https://w	www.o-hara.a 立	第 う う う (定 う う う (校る限る 学 校 学定 ち ち ち ち ち ち ち ち の教と者 位 教 位 な 企 企 必 ち 専育当 を 諭 又 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等等とを連携した演習の経験を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を変更を	o/ 習・実技のの のののののののののののののののののののののののののののののののののの	業時数 ・実持の受験を表現である。 まままでの では では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる では できまれる できまん できまれる できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん できまん	の授業時数 の単位数	ボームページURL 	456 0 2, 074 456 0 456	単単単単単単単 人 人人人人的 人人人人的 人人人人 人人 人人 人人人人人人人人	
ホームページ URL *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	https://w	www.o-hara.a 立数総 では がいで では では では では では では では では では で	算ううう(定 ううう)校る限る 学校 学の定 た ち ち ち う の教と者 位 教 位 の教と者 位 教 位 う の教と者 位 教 位 ち 専育当 を 諭 又 ち 専育当 を 諭 又 ち 東育当 を 諭 又 ち 東育当 を 諭 又 ち ま 、 ま 、 ま 、 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	を連携した演習の授 を連携した演習の授 を連携した演習の授 を実験で変 を実験で変 を実験で変 を連携したたまで表 を連携したたまで表 を連携したたまで表 を変 を変 を変 を変 を変 を変 を変 を変 を変 を変	o/ 習 時 修 修 シ 実 数 修 修 シ 実 演 プ の で ッ で は ま 第 で の の ッ で ま う で は か で で ま う で は い 門 で で ま か で ま	業時数 ・実授業時数 ・実後の授業時数 ・変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変	の授業時数 の単位数 対談置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項	ボームページURL (第1号) (第2号) (第3号) (第5号)	456 0 2,074 456 0 456	単単単単単単単 人 人人人人的 人人人人的 人人人人 人人 人人 人人人人人人人人	
ホームページ URL *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	https://w	www.o-hara.a 立数総 では がいで では では では では では では では では では で	算ううう(定 ううう)校る限る 学校 学の定 た ち ち ち う の教と者 位 教 位 の教と者 位 教 位 う の教と者 位 教 位 ち 専育当 を 諭 又 ち 専育当 を 諭 又 ち 東育当 を 諭 又 ち 東育当 を 諭 又 ち ま 、 ま 、 ま 、 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	を連携した実験・実施を連携した演習の授業等を連携した演習の授業等を企業等をを連携した。 を連携した。 を主きないまでは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、までは、	o/ 習 時 修 修 シ 実 数 修 修 シ 実 演 プ の で ッ で は ま 第 で の の ッ で ま う で は か で で ま う で は い 門 で で ま か で ま	業時数 ・実授業時数 ・実後の授業時数 ・変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変	の授業時数 の単位数 対談置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項 対設置基準第41条第1項	ボームページURL (第1号) (第2号) (第3号) (第5号)	456 0 2,074 456 0 456	単単単単単単単一人 人人人人人時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
- ①厚生労働大臣介護福祉士養成施設として、法令で定められた教育課程並びに外部実習又は就職先である老人、障害者施設等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②介護福祉士養成における各領域「人間の理解」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- ①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

- ②意思決定の過程について
- (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
- (イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
- (ウ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、副校長、教務課長、教務課長補佐が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。
- (エ)学園全体で共通する内容は学園教育事業部へ報告し、教育事業部で協議の上、教育課程編成に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

#REF!

名 前	所 属	任期	種別
小川 弥仁	福井県老人福祉施設協議会	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	1)
篠﨑 智江	株式会社ケア・フレンズ	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	3
大原 陵路	福井美容ビューティー製菓保育専門学校 枝長	交	_
金子 秀安	福井美容ビューティー製菓保育専門学校 教部長	牧	_
成田 裕行	福井美容ビューティー製菓保育専門学校 教課長	发	_
中野 成一	福井美容ビューティー製菓保育専門学校 教 務課長補佐	发	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、12月)

(開催日時(実績))

第2回 令和6年12月6日 14:00~15:30(実績)

第1回 令和7年8月6日 14:00~15:30(実績)

第2回 令和7年12月4日 14:00~15:30(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

従来のテキスト事例だけでなく、卒業生のなどが体験した実際の事例なども追加し、より多くの事例を通して自身の考えを育む機会を設けた。事例研究発表を通し、根拠や分析の必要性を再学習する機会となり、利用者の状況を様々な視点から捉え考えるようになった。しかし、一部はパターン化してしまい、支援内容を事例通りにこだわるなど偏りが出ることもあった。

- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- ①学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、企業等との連携の下、実習・演習の組立を行なう。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。
- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
- 実習、授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。
- ① 実習授業内容構築へのサポート
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③ 授業方法に関する教員への指導
- ④ 学生の学修習熟状況の評価
- (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
介護実習 I	3.【校外】企業内実習	人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感	ほっとリハビリシステムズ、ガーデンバ
介護実習Ⅱ		介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「こころとからだのしくみ I ~Ⅲ、認知症の理解」を総合的に学習する。	アニス松岡、第3和上苑、ガーデンハ・
介護実習Ⅲ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを 除く。)	ホスピタリティートレーニングやアイスブレーキングとは何かを理解して、コミュニケーション能力と促進方法を身につける。また、目的にあわせたアクティビティを選択、展開、引き出し方法と活用、更に、対象にあわせたアレンジ方法も学ぶ。学習した内容をもとにアクティビティ体験と指導体験にて、実践力を学ぶ。	アニス松岡、新田塚ハイツ、ガーデン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。

「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②大学教授等、専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発

実務に関する研修、指導力の修得・向上のための研修について、さらに効果的な研修にするため、研修回数の増加や日程 変更などの見直しを実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 介護福祉士養成教育のあり方 連携企業等:日本介護福祉士養成施設協会

期間: 令和7年3月1日 対象: 介護福祉科職員

内容 介護の価値を高める生産性向上の鍵

"^位 ICTが拓く介護教育の未来

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「学生を動機づける5つの方法」 連携企業等: 仁愛大学

期間: 令和6年12月5日(木) 対象:全職員

内容 達成動機に影響する3要因を確認し、具体的な動機付けの手法を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 本部にて検討中 連携企業等: 本部にて検討中

期間: 令和7年3月 対象: 介護福祉科職員

内容 未定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教員、学生に関する研修 (研修名未定) 連携企業等: 仁愛大学

期間: 令和7年12月で計画中 対象:全職員

内容 未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 ガイドラインの評価項目 学校が設定する評価項目 ①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 (1)教育理念•目標 ③学校の将来構想を抱いているか。 ①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 (2)学校運営 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。 ①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材 ニーズに向けて正しく方向つけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ーズに向けて正しく方向づけられているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされている か。 (3)教育活動 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施され ているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保して いるか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。 ①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られ ているか。 (4)学修成果 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。 ①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 (5)学生支援 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。 ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい るか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を (6)教育環境 ③防災に対する体制は整備されているか。 ①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 (7)学生の受入れ募集 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。

(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。 (3)学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会においても、昨年に引き続き、学生の社会適応能力の低下について多くの意見を頂いた。 学生が社会人へと自立していくために現在実施している実学教育と人格形成教育の内容をさらに充実させる必要性をあらた めて確認した。また、欠席超過、就職支援等、特別な配慮が必要な学生が多くなっていることについては、教職員の対応スキルを高めていくことが必要で、そのために専門家による研修等を実施していく。なお、実際の対応については他の教員や保護 者との情報共有を密に行い、連携して複数で行っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

	名 前	所 属	任期	種別
藤澤	賢之		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業等委員
篠﨑	智江	TE T 40 7	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業等委員
中村	俊岳		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業等委員
木瀬	備基	新田塚コミュニティ株式会社	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業等委員
藤山	健	キムフ株式会社	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業等委員
大嶋	步	合同会在a.n.d.	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業等委員
細野	敬治		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業等委員

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・ 内報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期: 令和7年10月

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先④学校の沿革
(2)各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得·検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3)教職員	各学科の担当教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金·修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生の募集
(11)その他	
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ · 広報誌等の刊行物 · その他())

URL: URL:https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期: 令和7年10月

授業科目等の概要

F		/\			程 介護福祉科)											
		分 選択必修	自	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演 習	方法実験・実習・実技	校	<u>所</u> 校	事 任	兼	企業等との連携
1	0			人間の理解Ⅰ	介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について学ぶ。また、コミュニケーションの意義を学習し、対話をする・意思の疎通を図る・説明責任がある、ということをふまえて、基礎的なコミュニケーション能力について学ぶ。	1 前	30	1	0			0			0	
2	0			人間の理解Ⅱ	介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について学ぶ。また、コミュニケーションの意義を学習し、対話をする・意思の疎通を図る・説明責任がある、ということをふまえて、基礎的なコミュニケーション能力について学ぶ。	1 前	60	2	0			0			0	
3	0			社会の理解	個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を 捉える視点を養い、人間の生活と社会の関 わりや、自助から公助に至る過程について 学ぶ。また、社会保障の基本的な考え方、 歴史と変遷、仕組みについて学ぶ。また、 介護保険・障害者自立支援制度や、個人情 報保護や成年後見制度等の基礎的知識を学 ぶ。	1 通 年	60	2	0			0			0	
4	0				レクリエーションの発展過程を見据えながら目標と理念、レクリエーションの展開方法などを学ぶ。また、高齢者や障害者に対するレクリエーションの与える影響などを踏まえたうえで、生きがい支援やリハビリテーションとしてのレクリエーション計画・実施・評価の方法や安全管理について学ぶ。	1 後	30	1	0			0			0	
5			0	人間と社会特 論 I	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間の理解 I・II」で学習した知識・技術を基に介護福祉士として必要な資質について学ぶ。	1	30	1	0			0		0		
6	0			介護の基本 I	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションや I C F、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 前	30	1	0			0		0		
7	0			介護の基本Ⅱ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションや I C F、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 前	30	1	0			0		0		
8	0			介護の基本皿	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションや I C F、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 前	30	1	0			0			0	
9	0			介護の基本Ⅳ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションや I C F、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 後	30	1	0			0		0		
10	0			介護の基本Ⅴ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションや I C F、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 後	30	1	0			0			0	
11	0			介護の基本VI	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 後	30	1	0			0		0		
12	0			コミュニケー	利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法の習得を学ぶ。また、介護におけるチームコミュニケーションのあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。	1 前	30	3	0			0			0	
13	0			生活支援技術 の基本	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。 そのための生活を理解し、個別性を尊重 し、幅広い生活上の援助を行うための方法 を理解する。また、ICFの視点に基づい た介護方法についても学ぶ。	 	60	2		0		0		0		

_																					
14	0		日常生活介護 I	そのた し、幅 を学ぶ	めの 5 広い生 。また メント	上活を 注活上 :、身 ·方法	理解 の援 じた	とし、 助を行 くに関	個別 うった する	て学ぶ。 性を尊重 めの方法 利用者の と留意点	i t 1)前	30	1		0		0		0		
15	0		日常生活介護	そしを スこと と と と	め広。ト支状の生た法では	E活を 活上 、 、 や、 か 、 た め	理解の動安の動安の介	し、 し、行 関す気 動の対	個別た利用を表法	で生め者く利留 おいまれる	1 前	30	1		0		0		0		
16	0		日常生活介護 IV	そのた し、 い く く く く く く く く く く く く く く く く く く	めの ⁴ 広いまた ト 大利用	E活を 活上 :、排 :や、]者の	理解の泄安状に全態	し、 助すを 動す的 が ・ 状況	個別た 利用 経なに応	て生を が。 学尊 夢想 のアイ りのかか がたかり	1 後	30	1		0		0		0		
17	0		介護過程 I	の意義 る必要 評価す	、目的 がある ること や 多 節]、目 o。ま : も大 t種と	標を た、 切で の連	明確に その計 ある。 携も重	して 画を その	には、そう、は画践に、	- 1 損後	30	1		0		0		0		
18	0		介護過程Ⅱ	の意義 る必要 評価す	、目的 がある ること や 多 節]、目 っ。ま : も大 ! 種と	標を た、 切で す の連	明確に その計 ある。 携も重	して 画を その	には、そうは、とうない。	- 1 損後	60	2		0		0		0		
19	0		介護総合演習 I	づけ等 を身に	の準備 つける 分な振	また こと まり返	い介記 ができ	護実習 きるよ 行うこ	了中に うに とで	識、動材は実践しまり はままままままままままままままままままままままままままままままままままま	1 1	40	2		0		0		0		
20	0		介護実習I	較と需的と と人と と を	りや的護の割、内 を りもしまれる。 りまれる。 りまれる。 りょう。 りょう。 りょう。 りょう。 りょう。 りょう。 りょう。 りょう	い ふ 機 い 者 以 る し に あ の し よ し に の し に の し に の の に る に る 。 に る 。 に る 。 に 。 る 。 に 。 る 。 。 に 。 。 。 に 。 。 に 。 。 に 。 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	用あ、学指を	を通びいを一受通に初受ス	持て設的援 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ョ、利員日すァ の用者の常るレ な。 シン	1 1 後	120	3			0		0	0		0
21		0	介護特論 I	理的態	度の洍	養に	資す	る「介	護の	教養や係基本 I で	1	30	1	0	Δ		0		0		
22		0	介護特論Ⅱ	理的態	度の洍	養に	資す	る「介	き護の	教養や係基本Ⅲ・ 合的に等	1	30	1	0	Δ		0		0		
23		0	介護特論Ⅲ		度の酒	養に	資す	る「介	き護の	教養や修 基本 V [≜] ぶ。		30	1	0	Δ		0		0		
24		0	介護実践 I	て組織 生活や	に参加 アルバ 学ぶ。	・	献す。 では の介記	る経験 得るこ	を積 との	会人とし み、学生 できなし 験し、 E	1	30	1			0		0	0		
25		0	介護実践Ⅱ	て組織 生活や ことを	に参加 アルハ 学ぶ。 性を確	〕 貢 バイ 実認 『認す	献する では の介 る。	る経験 得るこ 護現場	を積 との 場を体	会 人 学 き な い き な 、 き な 、 き な 、 き な 、 き な 、 と も し 、 と も し 、 と も し と も と も と も と も と も と も と も と も と	1 1 後	30	1			0		0	0		
26	0		発達と老化の 理解	を理解 学ぶ。	し、加 さらに 、身体	¹ 齢に は、 機能	伴う 高齢	障害や 者の身	疾病 ∤体面	での過れ について と精神 化につい	1 1 ※	60	2	0			0			0	
27	0		認知症の理解	に、認識にいいます。まままり、多いでは、多いでは、多いでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	知症の た、医 た、 職種協	を 学的 な族へ 弱働に	や行動 側面が の支 、認知	動障害 からみ 援や 知症サ	『等に ♪た認 、地 ^は ・ポー	ジン はいませい といて きゅう といて をり しょう こうしょう いっぱん かいい こうしょう はいい こうしょう はい こうしょう はい こうしょう はい かい こうしょう はい いい かい こうしょう いいしょう はい いいい いいしょう はい いいしょう はい いい いいい いいい いい いい いい いい いい いい いい いい い	型 1 後	60	2	0			0			0	
28	0		障害の理解	いを理: ICF ついて: 面につ	解する 、様々 学ぶと いて学	とと な障 とあ とぶ。	もに、 害のれ に、 また、	、障害 種類と 障害の 、地域	Fの捉 : 原因 : ある ずの連	いえ 、人 携つ	1 1 後	60	2	0			0		0		
29	0		こころとから だのしくみ I	より質 ぶ。そ 諸理論 み、ボ	の高し のため やディ 睡眠	ヽサー)に、 弦情の カニ ほこつ	- ビス ここく クス、 いて [!]	.の仕 ろの、 み身ぶ 学ぶ。	方くかたま	理 か 関 い 関 の 排 戦 も 、 、 、	1 前	30	1	0			0		0		

													1							
30	0		こころとから だのしくみ II	: Z	の高 のた。	いか・	ービス のし、 こクス こりて	スの(ろの く、身 、 学ぶ	仕し、じ、	にみらくた、	い 関する の 排泄、	1 前	30	1	0		0	0		
31	0		こころとから だのしくみⅢ	人よぶ諸み食との質そ論ボ、連	で高 のた。 おや、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	いサ・ めに情じ まカニ	ービス ここ のし、 こクス こりて	スの(ろの) くみ、身 、学ぶ	仕し、じ、	にみらくた、	い 関 の 排 泄、	1 後	30	1	0		0	0		
32			こころとから だのしくみの 特論 I	介護を理りている。	みI・	~Ⅲ、							30	1	0		0	0		
33	0		レクリエー ション指導		ンョ目開わる	とおおきアによったと	可につ出レアか促せしンク	理方ア法方ィ	しきテ活も	、 ↓にビ ・ に で ・ の で の の の の の の の の の の の の の	ミ け ィ に 学 習 し	2 前	40	2		0	0		0	
34	0		社会常識	社は必用いぶ。	でのイ を理解 ど、(士事の 解する 也者へ	り進め る。ま への言	方、 た、 葉遣	報告 先輩 いや	i連絡 で上 立ち	相談の 司、利 振る舞	2 後	30	1		0	0	0		
35	0		情報科学演習	既存の 集計や を社内 方法)	統計が 外へ	処理に 報告す	こつい けるた	て学	ぴ、	その	データ	2	30	1		0	0		0	
36	0		人間と社会の 総合	介理総術護る	度の な学 護実	函養に 習。こ 習にて	こ資す これま こ得た	る「 で学 現場	人間 習し 経験	引と社 ,た知 (を基	会」の識・技に、介	2 後	30	1	0		0	0		
37		0	人間と社会特 論Ⅱ	介護を 理的態 総合的	()支 () /	四食い	- 貝 9)基盤 ⁻ る「	éとな 社会	こる教 €の理	養や倫 解」を	2 前	30	1	0		0	0		
38		0	福祉実務	介護保 を握し、 流る。	とし、 介護 [・]	介護 サーヒ	隻が必 ごスを	要な 利用	状態	の段の際の	階を把 費用の	2	30	1	0		0	0		
39	0		コミュニケー ション技術 II	チーム	ョン(の習行 コミ: !し、	の意義 得を学 ュニク チーム	養と目 学ぶ。 ケーシ ムの一	的まっしと すると	·理解 :、介 ·のあ	¥し、 ↑護に らり方	具体的おける	2 前	30	1	0		0	0		
40	0		福祉住環境 I	居のよ働用事新にてなやい	にニー・そいがらい 海外の	ーズは を 大具に 学習 の の	を発見しい 発化いる かる がある	し、て日で、	い職ルのド	のとプしで経	、携一を協力と ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	2	30	1	0	Δ	0	0		
41	0		家事介護	自そしを買の技に対した。	めの 広い <u>な</u> 。まか	生活を 生活上 た、訓 った、	を理解 上の援 問理、 自立	解し、 動を 洗濯	、個 ·行う 、掃	別性 ため 除、	を尊重 の方法 裁縫、	2 前	30	1		0	0	0	0	
42	0		日常生活介護	自そしをスえ応 立の、学メるじ をスえた	めいまた	生活を 生活上 た、 また、 また、	を理解 との援 い も 、 も 、 れ	解し、 援助関し 関し 関し 関し 関	(行る食の	別た別用る能	を尊重を のと 状況 を 決 に と 大 に と た に と か に と か に か に か に か に か に か に か に か	2 前	30	1		0	0	0	0	
43	0		日常生活介護 V	自そしをア助助の理セのの	めいなる。	生活よ 生活よた ト方法 利用者	を理解 との、 といる といる といる といる といる といる といる といる といる といる	解助眠安態・	(行)関を状況	別性める利は	を尊重 の方法 用者の	2	30	1		0	0	0		
44	0		利 用 者 の 状態・状況 に応じた介護 技術	を学ぶ	め広。ト支状のいま方え沢	生活となるにある。	を理解をのます。	解し、と関いている。	(行る兼技)	別たは別別の	を尊重 のの動用者の	2 前	30	1		0	0	0	0	

				F	E 10 T		ш	ビフ	, + +	·8 /#	<u>+</u> 7	: +_ \		1+	2											
45	0		介護過程Ⅲ	のる言幸	D意 る必 平価 吸 共 4	高 議 要 す 有 技 が る で た た た た た た た た た た た た た	目あこ多的ると職	、 。 も 種 と	標で、 に切っ このi	を、で連明そあ携	確の計るも	こして 計画で その	て計 を実 の他	画を 践し に、	す 、 情	2 前	60	2		0		0		0		
46	0		介護総合演習 Ⅱ	機路がよ	幾づ! 桟力 る ト護!	実習したまではません。までは、まままでは、ままままでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	どの こつ 後は	準備 ける 十分	請を1 るこ。 }な‡	行い とが 振り	介護でき 返り	隻実音 きる。 りを1	習中よう	には にし こと	:実 、 で	2 前	40	2		0		0		0		
47	0		介護総合演習 Ⅲ	国を	づけ等 を身! 後は-	実習ります。	準備ける振	を行 こと り返	ういか こがつ 支りる	介護で行を行	実習るようこ	中 とっ	こはこし	実践 、実	力習	2 後	40	2		0		0		0		
48	0		介護実習Ⅱ	害したとたこ	害者が用い事である。	階又ルハ関とアで実はに方連連レす	老芯こで携ン人じつ独のス	のてい自方を 施球での 法通	記め学判にし、	をらぶ断つ、実れ。でい利	習るま行て用でする	記談技に てぶのか	と技医は、し術療なケ	、の・ら一	害正護い力		160	4			0		0	0		0
49	0		介護実習Ⅲ	力 氏 7 行 2 2	旧けいでままる	階、固てきざ間で 実サ別学るまをの	一のびよな通ビ介、うプじ	ス護チ取口で	般程 は り り り り り り り り り り り り り り り り り り	このアンドンのアンドラスのアンドランのアンドランであった。	い開員現参	理記し準し、	解録て構る	る方護育用	同に遂。の	2 後	176	4			0		0	0		0
50	0		介護の総合	理なる語	里的意 は学習 隻実習	を実践というと思います。と思います。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	の涵 これ て得	養に まて た現	こ資で で学習 現場	する 習し 経験	「介 た知 を基	r護」 l識 stに、	ı の ・技 介	総合、護福	的介	2 後	90	3	0	Δ		0		0		
51		0	介護の特論Ⅳ	月 7 日	里的! [• \	を実 態度 V・ラ の約	の涵 利用	i養1 者σ	こ資)状態	する 態	5 Γ	日常	生	活介	護	2 前	30	1		0		0		0		
52		0	介護実践Ⅲ	て生ころし	と 組糸 上 と る え	や職やを適楽を適楽	参 ル が 。 確	・イ実認す	献でいる。	する得護働	経る現く	をといると	責の本の	、きないと	生い自厳	2 前	30	1			0		0	0		
53		0	介護実践Ⅳ	で生ころし	て組 組 注 活 と る う の 説	や職やを適楽	参ルぶを確	・イ実認す	献でいる。	する得護働	経る現く	をといると	漬みで験意	、 き し は よ	生い自厳	2 後	30	1			0		0	0		
54		0	福祉住環境Ⅱ	ににるしき	ここがしまれた。	者ンける「ない」という	フー 実め い生 る。	メ方の活ま	ノトで 法に 活活 この f	を繋を爰安を要せる	きずるした	さして かに う、 が う、 が	て自てした	立てきの方	援学重法	2 後	30	1	0			0		0		
55	0		こころとから だの しくみⅣ	らい話み食	よぶ者 外妻、事、	の質を論ボ、連携に	高た、ィ眠いめ感メ等	サーに情力に	ービ こし こりに	スの こく スス て	かのり、りぶのなりののかります。	方くかたま	つかにく、	い関の排	学るく、	2 前	30	1	0			0			0	
56	0		こころとから だの しくみ総合	io I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	関的したを表	を態く知基といる。	の涵 の技介	養総術護福	上資 合的 / 介言	する な学 護実	「こ 習。 習に	こさ これ こて彳	ろと れま	から で 現場	だ習経		30	1	0			0		0		
57		0	こころとから だのしくみの 特論 Ⅱ	0σ	りしく	を実 態度(くみ! を総合	V.	障害	- Q FのF	理解	、発	`	ے ر	13 - 5	/-	_	30	1	0			0		0		
58	0	合	医療的ケア			的ケラ							する	ため	67	2 前	78	3	0		460)	O	· · · ·	〇	7 P. F. F	
															٠,	17				`-,	/		\	, ,	9 [6	•/

	卒業要件及び履修方法	授業期間等	÷
卒業要件:	卒業の認定は、修業年限以上在学して、以下に定める授業時数以上を履修しかつ以下に定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。 介護福祉科(2年制)2,074時間(68単位)	1 学年の学期区分	2 期

学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験又は再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった履修方法:者に対して実施する。また、学業成績の判定は、秀・優・良・可・不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。授業科目の成績は前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。	22 週
--	------

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。